

# 自閉症は 身近な障害です



こうした特徴は濃い人も薄い人もおり、幅広いバリエーションがあるので、その意味で「スペクトラム（連続体）」といわれるようになりました。医学的診断基準では「自閉スペクトラム症」または「自閉症スペクトラム障害」といいます。かつては「広汎性発達障害」、その中の一部を「アスペルガー障害」といっていました。知的障害や ADHD（注意欠如多動性障害）などの他の診断を併せ持っていることもあります。

最近では自閉症スペクトラムの人は人口の1%以上であると考えられています。暮らしていくのに恒常的な支援が必要な人から、「ユニークな人」として好きなことに才能を発揮して働いている人までさまざまです。誰でも身近で出会う障害です。

自閉症の人は本来、まじめで秩序があることを好み、穏やかにすごしたいと思っています。しかし、育っていく過程では、社会の求める暗黙の了解がわかりにくく、コミュニケーションが苦手なので、苦労することが多いのです。感覚が敏感で人にはわからない苦痛を味わったりします。目に見えない障害で、自分で説明することも苦手なので、誤解されやすいです。記憶力のよさが災いして、つらい体験が忘れられず苦しむ場合もあります。